

# J R関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通活性化協議会

## 開催結果（第21回）

### 1. 日 時

令和3年12月10日（金）午後3時15分から午後5時20分まで

### 2. 場 所

笠置町産業振興会館2階ホールにて開催

### 3. 出席者：委員18名（うち代理5名）、オブザーバー1名（うち代理1名）

### 4. 議題等

#### (1) 報告事項

報告第1号 相楽東部広域バスの利用状況

#### (2) 協議事項

協議第1号 相楽東部広域バス運行等に係る事業評価

＜承認（一部修正）＞

協議第2号 計画策定スケジュール

＜承認＞

協議第3号 JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通計画（中間案）

＜承認（一部修正）＞

### 5. 主な発言

#### (1) 報告事項

報告第1号 相楽東部広域バスの利用状況

- ▶ 令和3年の10月及び11月の利用者数はどのくらいであったか。  
⇒10月については143人の利用があり、前年よりも利用者が増加している。
- ▶ 運行日や停留所、ルートについて、現在の状態で良いのか検討していく必要がある。  
より地域の方々にとって利用しやすいように考えていきたいと思っている。

#### (2) 協議事項

協議第1号 相楽東部広域バス運行等に係る事業評価

- ▶ コロナ禍においても利用者が増加しており、運行回数1回あたり2人を越え、目標を達成していることから、効果が出ているのではないかと感じている。
- ▶ 新しい計画を策定していく中で、今の計画の中でどれだけのことができて、どれだけのことができていないかということを整理していく必要がある。それを事業評価に示していけば良いのではないかと感じている。
- ▶ 資料2-1は、はじめに、全体として、この1年間は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少したものの回復の兆候があることを示した後、各公共交通

の状況を簡単に整理してはどうか。それから計画の中でどれだけのことができて、どれだけのことができていないかということ整理していけば良いのではないか。

- 資料2-1の「3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容」で計画を策定中であることが記載されていない。具体的に言うと、取組経緯は昔からのことをすべて記載する必要はなく、例えば計画策定やダイヤ改正などの主要な部分と昨年の10月以降のことを記述すれば良い。また事業については、どのような基準で書かれているのか、教えていただきたい。南山城村の事業についても計画に含まれているので、ここで位置付けた方が良いのではないか。そのようにした方が計画として、頑張っている感じや考えていることが伝わる。

⇒フィーダーの補助事業以外については割愛している。南山城村については、別途、協議会が開催されているため、本資料には掲載していない。

- 3町村の計画に位置付けられた事業は書くべき。
- 資料2-1の「1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像」の地図で公共交通に番号を振り、それぞれについて事業を説明した方がわかりやすい。
- 資料2-1の「5. 自己評価から得られた課題と対応方針」については、課題に対して対応方針を1対1で紐づける方が良い。
- 資料2-4は、PDCAのところをしっかりと記述していく必要がある。左側は概要、右側では取組みについて記述した方が良い。また協調すべき点は文字のフォントや大きさ等で示した方が良い。事業評価に関する資料は、再度、検討していただき、私の方で最終判断をさせていただきたい。

#### 協議第2号 計画策定スケジュール

- 計画は、3月末に必ず策定する必要はないと考えている。3町村でやるべきことがきちんと記載された計画を作成していきたい。計画の内容が重要である。
- コロナ禍を踏まえ、計画で何をしていくかを考えていく必要がある。

#### 協議第3号 JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通計画（中間案）

- 中間案の段階で必ず入れて欲しいことは、各施策において誰がやるかということである。誰がやるかが書かれていないと誰もやらない。地域公共交通計画が他の計画と大きく異なる部分は、行政だけではなくメンバー全員で進める場所である。
- 問題点や課題、基本方針が整理されたという前提で話をするが、実施主体のほかに予算をどのように投資をしていくのかという中で、複数の施策が記載してあるが、特に重要視すべき施策はどれか。

⇒特に重要視すべき施策としては、奈良交通バスの木津和束線や犬打峠トンネル開通によるバス路線の運行等の公共交通の再編であると考えている。また住民等からの要望が高い月ヶ瀬駅等の駅舎の改修であると考えている。

- 重要な施策には2種類あり、非常に重要なものと先行して進めていく必要があるも

のとある。先行施策は、計画が策定されてから2年間ぐらいでできるもので、スタートダッシュが付きやすい。先行施策が進めば、他の施策も進んでいく。重点施策は時間を要するものの、5年間で着実に進めていくものである。すべての施策を同じ重み付けをするのではなく、施策によって強弱があるものと考えられるため、それがわかるように整理した方がよい。

- ▶ 地域懇談会でも話に出ていたが、相楽東部は突出して高齢化が進んでいることから、高齢化に関する施策は重点施策になってくると思う。その観点から、①-1についてはバリアフリー化についても入れた方がよい。JR に対して愛着を持っている住民にとって、JR が利用しやすくなるように改善した方がよい。
- ▶ バリアフリー化しなければ高齢者が利用できず、公共交通があっても使えない。高齢化が進むほど、3 駅とも有人化していく必要があるのではないかと考えている。有人化は必ずしも JR がする必要はない。どのような先進技術が入っても、時間帯が限定されても、人の手は必要になるのではないかと考えている。
- ▶ 鉄道駅をバリアフリー化するためには乗降者数の条件があり、相楽東部では合致しないため、なかなか優先順位があがらない。有人化については、地域の力を借りて進めていきたいと考えている。バリアフリー化については基本方針及び施策に入れてもらい、一緒に考えていきたい。
- ▶ 交通事業者がバリアフリー化できないところについては、地域でどうにかしていかなければならない。新都市ではクラウドファンディングでエレベーターを整備した。バリアフリー化については、どのようなかたちでできるかを検討していく必要がある。
- ▶ 基本方針2の「高校生・高齢者を主なターゲットに、自家用車に頼らなくても、通勤・通学・買い物・通院ができ、「健幸」に暮らせる地域を目指す」だが、高齢者・高校生は通勤しないので、表現を再考して欲しい。例えば、誰もが自家用車に頼らなくてもという表現に変更したり、通勤を残すのであれば整合が取れるように修正していただきたい。
- ▶ 基本方針5の「まちづくりと連携した公共交通サービスの改善によって「おでかけ」したくなる地域とすることで、コロナ禍を乗り越え、人口減少社会においても公共交通を持続可能とする」とあるが、施策をみると、交通空白地有償運送やデマンド交通の拡大とあり、まちづくりとは異なるのではないか。まちづくりというのは駅前整備や街路整備等が該当するのではないか。
- ▶ 基本方針において、観光関係の踏み込みが弱い印象を受ける。来訪者の方に、公共交通を利用してもらうことが大切である。来訪者の利便性をあげるのではなく、来訪者に利用してもらうことで乗車率を上げることになり、路線の維持につながるのではないかと、地域にもメリットがあるのではないかと考えている。M a a Sに関する記載もあるが、M a a Sはなかなか結実しない感触を受ける。
- ▶ まちづくりと連携した施策というものは何なのか考えていく必要がある。鉄道駅と

の連携はまちづくりに該当するのではないか。鉄道駅に必要な機能として案内があるが、名所案内や散策ルート等の案内板やウエルカムボード等の情報提供は、積極的に進めても良いのではないか。そういうものをつくと住民の意識も変わる。

- 鉄道駅の案内板の設置はメンテナンスがかかるので、なかなか難しい状況にある。
- M a a S は地域毎や会社毎につくっても意味がなく、一瞬で終わってしまうのではないかと感じている。全国で使えるものを如何に導入するか、例えば Google で検索できる方が、価値があるのではないかと考えている。
- 南山城村でデマンドタクシーを導入しているのであれば、南山城村のシステムを笠置や和東で展開していく方が良い。また、そのシステムにサービスを付加していく方が良い。こういうことを M a a S として書くことが必要である。
- 国では、計画とフィーダー補助が連動するように動いているため、計画での見せ方については相談させていただきたい。今回、地域の声を集めており、問題点に反映されている。このため、問題点と課題の結び付きについて、わかりやすく示していただきたい。そのことにより、地域も一緒につくった計画という位置付けになる。
- 計画に記載する現況については 2～3 ページ程度の概略とし、そして計画として進んだものと進んでいないもの、新たに生じた課題についてまとめるかたちに変更していただきたい。そうでないと、この計画がどういう立ち位置であるかがわかりにくい。概要版も、現況についてそれほど書く必要はない。概要版に書く必要があることは、それぞれの施策について誰が何をするのか、また重点施策や先行施策についての詳細である。
- 例えば、通院がしやすい、高校生が安心して住める、免許返納しても安心等が現実的に言える、この 3 町村で確実にできることを表した、住民や公共交通の利用者にわかりやすいキャッチフレーズが欲しい。基本方針は抽象的すぎてわかりにくい。
- 計画の中で抜けているものがないか、確認してもらいたい。各団体に盛り込んでほしいことを出してほしい。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、計画の中でインバウンド対応が抜けているので、検討してもらいたい。
- インバウンド対応としては、多言語化やナンバリング、ウェブサイト、決済サービスが施策としてあり、具体的に考えていく必要がある。合わせて観光協会のホームページの充実等についても考えていく必要がある。
- 計画の中で一番重要なのは「10. 計画目標実現に向けた具体的施策」の部分である。計画の最終案の作成に向け、委員の皆さんには、この部分についてよく考えていただきたい。

以上